

自分のできるところからはじめたい Part 1



昨年6月に結成された環境計画町民会議は、4回の会議（3地区のべ12回）を行ない、天売、焼尻、羽幌地区それぞれの自然環境・生活環境の問題点を洗い出し、それを解決するためにわたしたちに出来ること、行政や事業者などがすべきことについて話し合いをしてきました。その話し合いの中から出されたアイデアのいくつかを実際に町民会議メンバーと町民の皆さんと行政と一緒に始めてみたいと考えています。
一緒に出来るところからはじめてみませんか。

川と海をきれいにしたい

平成14年12月に実施した環境アンケートの中で、町民の嫌いな場所として一番多くあげられたのが川と海と街並みという結果でした。特に福寿川の汚濁と悪臭の苦情が多く、羽幌地区の町民会議でも汚濁・悪臭を何とかしたいとの意見が強く出ていました。

また、天売地区、焼尻地区でも家庭からの生活排水が直接海に流れ込み、海を汚しているという意識が強く出されていました。

20年前に天売・焼尻・羽幌の各漁業協同組合で天然洗剤の使用促進運動が行われましたが、泡立ちが悪いなどの理由で使用が伸びず、運動がなくなってしまいました。

昨年6月、魚の化学物質による汚染が報道され、妊婦が週に2度、キンメダイやメカジキを食べると胎児に影響が出ると発表されました。

日本海をちょっと大きな琵琶湖と考えて、海洋汚染を真剣に考えなければならない時期に来ていると思います。その対策として、下水道や合併処理浄化槽を普及させることはもちろんですが、わたしたちが出来ることでは、なるべく魚などの生き物に悪影響を与え

ないために、「自然の中ですぐに分解する環境にやさしい洗濯洗剤・食器洗剤などの使用を勧める」、「アクリルたわしなどを使いなるべく洗剤を使わない」、「調理の汚れはなるべくふき取ってから洗う」などの方法があると思います。

その他に、福寿川の汚れを直接取ることが出来ないのかを考えています。その方法として、全国各地で成果が出ていますが、貝殻を川の中に沈め微生物のすみかを作り、微生物の力で川の汚れをきれいにしようというものです。

昔の川底には砂利があり、その隙間に微生物が住みつき、流れて来る汚れを食べて川をきれいにしていました。今の福寿川はコンクリート張り、土が溜まり微生物が働きづらい環境にあると思われます。そこに、貝殻を網の袋に詰め底に置き、微生物のすみかを作り、微生物の働きやすい環境を作り出そうというものです。

次回は、スローライフ運動について提案したいと思います。



環境計画町民会議では、会議の中から出てきた環境を良くする運動を、町民の皆さんと一緒に、「自分のできるところから、できる時からすこしづつ始めて行きたい」と思います。皆さんも、今からでも一人からでも出来ます。ちょっとだけ自分のまわりの環境に目を向けてみませんか。それが未来の子どもたちへ、素敵な環境を残していけるカギだと思います。

▶環境計画町民会議へのご意見をお待ちしています。事務局（農林水産課自然環境係）へご連絡ください。
☎ 2-1211(内線347) E-メール nousui@town.haboro.hokkaido.jp